

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

全国学力・学習状況調査が今年度も6年生と9年生を対象に国語、算数・数学で実施されました。あわせて、学習意欲や生活習慣などを確かめる「児童生徒質問紙調査」も行われました。町の結果についてお知らせします。

【国語】

さまざまな情報を観点別に分類・整理する問題は、正答率が86.2%とよくできていました。一方で、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるよう記述する問題では正答率が48.9%と低く、事実と意見を区別して書く等、正確に分かりやすく書くことについては課題がみられました。また、文章に添えられた図と本文を結びつけて内容を解釈する問題の正答率は25.2%と低い結果でした。

これらのことから、どの教科においても伝えたいことが正しく伝わるように表現を工夫して書き表したり、文章と図表との関係性を捉え内容を正しく読み取ったりしていく力を付けていくことが必要だと分かりました。

【算数・数学】

問題場面を表す式を考える問題は、正答率が90.1%とよくできていましたが、一方で球がぴったり入る立方体の体積を求める問題の正答率は26.3%と低く、球の直径と立方体の辺の長さとの関係を捉えることに課題がみられました。また、関数の特徴を表や式、グラフなど相互に関連付けて説明する問題についても、正答率が13.7%と低い結果でした。

これらのことから、算数・数学の学習内容を日常生活と結びつけて学べるようにするなど、子どもが実感をともなって理解できるようにすることを大事にしていきたいと考えています。さらに、全体的に無解答が多かったことから、どの教科においてもまず自分でやってみることや、自分の力で考える粘り強さを身に付けていきたいと考えています。

【児童生徒の質問紙調査の結果から】

「タブレットなどのICT機器の活用に関わる内容について」

○「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」

・ 6年 93.2% ・ 9年 99.4%

○「友達と協力しながら学習を進めることができる」

・ 6年 91.1% ・ 9年 91.3%

★ICT機器を活用し、疑問に思ったことをすぐに調べたり、友達と協力しながら考えたりすることができていると分かりました。一方で、文章などを読んでじっくり考えたり、納得いくまで深く理解したりすることについては課題がみられます。さまざまな資料をもとに考えを深めたり、想像を広げたりする学習を多く取り入れていきたいと考えています。

「いじめに関わる内容について」

○「どんな理由があってもいじめをしてはいけないと思う」

・ 6年 98.7% ・ 9年 92.0%

○「人が困っているときは、進んで助けている」

・ 6年 94.5% ・ 9年 92.0%

★多くの子どもが、いじめはしてはいけないと理解できています。また、困っていたら助ける姿勢が身に付いています。しかし、学年が上がるにつれ、肯定的な回答の割合が減少しています。そのため、すべての生徒が規範意識を高めていけるよう、いじめに関わる具体的な場面を捉えて継続的・組織的に指導していくことが大切だと考えています。